

審議会等の会議結果報告書

課所名

環境課

会議名 令和3年度 第3回諏訪市環境審議会

開催日時 令和3年 10月25日(月) 15:00~16:35

出席者 委員:平島 安人委員、河西 佑紀委員、笠原 雅男委員、北原 悠二郎委員、宮原 裕一委員、
宮坂 忠彦委員、伊東 克幸委員、武居 薫委員、小林 佐敏委員、佐藤 よし江委員、
大館 道彦委員、小泉 幸善委員(団体名五十音順)
諏訪市:金子市民環境部長、中澤環境課長、小松環境保全係長、大槻主査、笠原主査
地域総合計画:水野氏、大澤氏
傍聴者:0名

資料 次第、資料1~6、事前資料1、2-1~2-2

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1 開会

2 あいさつ

3 報告

- (1) 諏訪市環境基本計画改定のためのアンケート調査結果報告(案)について
- (2) 諏訪市環境基本計画施策体系(案)について
- (3) 諏訪市環境基本計画施策一覧表(案)について

【質疑、意見等】

- なし

4 審議

- (1) 第二次環境基本計画の取り組み結果と課題

【質疑、意見等】

- 4ページの基本目標3の最初の実績で、ススキ刈りだけでなく、ササ刈りも実施している。
- 同じページの課題で「一部外来種が減少している一方で」と記載があるが、イメージとしては動物も植物もあるため、表記について分かりやすく記載をしてもらいたい。
- ニホンジカによる森林等の食害以外にも草原や湿原にも食害が出ているため、そういった事項も記載いただきたい。
- 帰化植物除去という言葉が使用されているが、現在はあまり使用する言葉でないため、外来植物など文言を統一するなどしていただきたい。
→ご意見いただいた内容を含めて追記及び修正をすることとしたい。
- 取り組みの結果と課題の2ページから3ページにかけて、③の「災害に強いまちをつくろう！」で、森林の整備の必要性はよく分かるが、災害が多発し、喫緊の課題と感ずる中で、森林の

個人所有者や生産森林組合の人たちの話では、土地を持っている方たちが高齢化して整備ができないという声を聞くが、市としてどのように考えているのかをお聞きしたい。

→本件は、担当課である農林課が関係団体等と協議しながら森林整備について検討を始めている。土地所有者の高齢化が進んでいる状況で、個人で森林に手を入れられないとのことであるため、森林経営管理制度といった制度活用を含めて関係団体と今後も調整していくと関係課からは報告を受けているところである。この意見については担当課にも情報共有させていただく。

(2) 第三次環境基本計画の構成の検討

■問題意識の捉え方が足りないと思う。例えば望ましい環境像として諏訪市がこうなったら良いということが記載されてあるが、そのためにはもっと大きな基盤が必要。大きな意味で環境自体がちゃんとしてなければとても実現できないわけで、今の認識としては気候変動がものすごく大変な問題になっている。それに対して、この計画では気候変動は何も考えてないと言ってもいいくらいのレベルである。他にも世界の認識は気候変動よりも生物多様性の喪失がより大きな問題になっているという認識である。もうちょっとそこをきちんと入れ込んで、その認識の上でどうしていくのかというものでないと、環境基本計画をここで変えて大きく見直すにはあまりにも足りなさすぎると考える。

■排出される温室効果ガスが 316.24 トンとあるが、1人当たりでもこんな小さい数字であるのかが気になった。

→ご指摘のあった地球環境の温室効果ガス総排出量の件は単位が間違っており、正確には 31 万 6240 トンになる。

→大きい項目として、気候変動と生物多様性の部分についてご指摘いただいたが、改めて現状の問題等を整理しながら内容等も踏まえて、再度検討をさせていただきたい。

■第二次計画と比べて文字数が少なくなっていて、具体的な部分がちょっと見えづらくなったように感じるが、施策を整理するにあたって、現行計画の内容は第三次計画に振り分けて残るのか。それとも、もう済んだことなので新たに計画はそれぞれ新しく組み直すのか、あるいは新規に何か考えていることがある場合、この現行計画では新規のことは把握できるという、その辺の現行計画と新規の計画との関係はどのようになっているのかを伺いたい。

→現行計画は、基本目標と個別目標と基本施策という形であるが、第三次環境基本計画は全く同じ体系として考えておらず、環境推進会議の委員からいただいたご意見等から、基本目標と方針、施策という体系で案としてまとめている。この体系についてはあくまで案であり、今後の環境審議会の委員意見やパブリックコメントにより構成は再度検討していくこととなる。

■構成を見たときに「行動する」とか強い言い方で、誰がこれを進めていくのかという感じがあった。一緒にやっっていこうという雰囲気がちょっと感じられず、冷たいというか、きつい表現かなと思ったので第二次環境基本計画のような表現の方が協同してやっっていくというような雰囲気があるのかなという印象を受けた。

(3) 第三次環境基本計画素案について

■今後やっっていく対策への希望ということになるかと思うが、地球温暖化対策のところでは省エネルギーとかエネルギーの使用量削減ということと再生可能エネルギーを作るということは入っているが、長野県の場合は冬場に暖房に使うエネルギーがすごく多いわけで、それによ

ってCO₂が出てしまう。そこを抑えることによって、使うエネルギーが減るのでCO₂も減るということになる。また、空き家の増加や民家がだんだん古くなってきて、そこをどうにかするっていうことと省エネを結びつけるとやることは多い。地元の雇用にも結び付くところがあると思うので、効果が大きいという点では断熱ということをもっと考えた方がいいのではないかなと思う。

■生物多様性を確保するというと、霧ヶ峰が前面に出てくるように感じる。生物多様性を確保するっていうのはこれから非常に重要になってくると考える。霧ヶ峰に触れておきながらの今回の計画素案には生物多様性確保の内容が入っていないので検討をいただきたい。また、諏訪湖の生物多様性の確保についても検討いただきたい。

■温暖化防止について、諏訪市の削減目標の説明があったが、これを見ていくと大幅に達成できないままということが明らかだと感じる。長野県からこの削減に向けて各市町村に対しては、どんな要請があるのか。温暖化対策が市民に浸透していない。もっとアピールもしなきゃいけないだろうし、政策の面もそうだろうし、太陽光発電を個人宅に屋根の設置してもらおうのも、もっと大幅に実績を広げていかないと、とても間に合わないと思う。その点どう考えるか。

→削減目標については、具体的数値に示すことが必要と考えているので、国の削減目標に準ずる形で2030年の46%減というところを示していく中で、実際にこの目標値まで削減させていくためには、どういった取組が必要かということについても十分な検討が必要である。諏訪市として再生可能エネルギーの普及を促進していくには、現状でいうと再エネの補助金等になってくると考える。他にもどういった取組ができるのかを検討していく。

5 その他

6 閉会

以上